

協会の飼料増産に係る取組み

1. 協会が取組む普及啓発事業	1
2. 新品種の紹介	3
3. 公的育成優良品種パンフレット	6
4. 令和6年播種用飼料用稲種子の供給について	10
5. 牧草飼料作物・飼料用稲 現地実証展示ほ設置の手引き	11
6. コントラクター等研修計画	15
7. 放牧畜産基準認証制度のご紹介	16
8. 飼料稲給与畜産物認証制度のご紹介	20
9. 放牧を中心とした持続的畜産普及拡大推進事業(継続)	22
10. 飼料用大豆・高栄養 TMR 生産調製実証事業(継続)	24
11. 令和4年度事業主要成果品一覧	26

令和5年9月1日

一般社団法人 日本草地畜産種子協会

1. 令和5年度に(一社)日本草地畜産種子協会が取組む普及啓発等事業

(1) 協会が都道府県、都道府県関係団体、各種協議会等と共催で開催する普及啓発等事業

No.	名 称	内 容	主な参加・受講対象者	協会が負担する主な経費	備 考	区分
1	飼料増産に係るブロック会議	ブロック段階の飼料増産推進会議及び現地検討会等の開催	都道府県、普及機関、行動会議構成員、試験研究機関等	会場借料、講師派遣経費、資料作成費等	農政局等と共催	A
2	高能力新品種の展示ほ等を活用した現地検討会	飼料作物の展示ほ場等を活用した、品種の特性や栽培・利用等についての研修会等の階差	普及センター、市町村、農協、農家、コントラクター等	会場借料、講師派遣経費、バス等の借り上げ費、資料作成費等	都道府県、農協等と共催 高能力新品種展示ほ設置協力者に種子代等を助成	A
3	飼料生産・放牧指導者育成研修会	地方公共団体や農協職員等の指導者を対象にした飼料作物・飼料用稲の生産利用や放牧等に関する研修会等の開催	地方公共団体職員、農協職員、公共牧場職員等	会場借料、講師派遣経費、バス等の借り上げ費、資料作成費等	農政局、都道府県等と共催	A B

(2) 関係団体等が開催する研修会等へ協会が専門家を派遣する事業

No.	名 称	内 容	主な対象者	備 考	区分
4	放牧指導者による地域指導	放牧アドバイザー等専門家による放牧技術等に係る現地指導の実施及び関係団体等が開催する技術研修会等への専門家の派遣。	農家、普及センター、農協、市町村職員等	放牧アドバイザーの派遣については、本会ホームページに申請書を掲載	B
5	飼料稲指導者による地域指導	飼料稲アドバイザー等専門家によるWCS用稲生産利用技術等の現地指導の実施及び関係団体等が開催する技術研修会への専門家の派遣。	農家、普及センター、農協、市町村職員等	飼料稲アドバイザーの派遣については、本会ホームページに申請書を掲載	D

(3) 協会が関係団体等と共催で技術研修会等を開催する事業

No.	名 称	内 容	主な参加・受講対象者	協会が負担する主な経費	備 考	区分
6	飼料作物栽培技術研修会等の開催	飼料作物・飼料用稲の生産利用や放牧等に関する技術普及のための研修会等の開催	農家、普及センター、農協、市町村職員等	会場借料、講師派遣経費、バス等の借り上げ費、資料作成費等	関係団体等と共催	A B C

注：A(草地生産性向上対策のうち飼料作物優良品種利用・安定生産対策)、B(放牧を中心とした持続的畜産普及拡大推進事業)、C(ドローン活用飼料増産技術実証事業)、D(協会実施事業)

(裏面に続く)

(4) 協会が主催する研修会・検討会(関係団体や地元団体との共催も可能)

(開催については、詳細が決定次第ホームページ等でご案内します。)

No.	名 称	内 容	主な参加・受講対象者	備 考	区分
7	放牧技術研修会	放牧技術の指導者及び放牧への転換を志向する畜産農家を対象に、放牧に関する専門的な技術と知見を有する放牧指導者による座学と実技研修(電気牧柵の設置、GPSを活用した牧柵の設置を含む)	農家、普及センター、農協、市町村職員等	放牧に係る座学と現地研修	B
8	コントラクター等情報連絡会議研修会	コントラクターやTMRセンターのレベルアップを図るための専門家による講演と、事例発表を通じた情報交換等	コントラクター、TMRセンター、行政関係者、農協職員、畜産団体職員等	情報交換と現地視察	A E
9	飼料生産組織従事者技術向上研修会	コントラクター等のオペレーターを対象とした、飼料作物の生産利用、大型農業機械の保守点検整備、作業の安全等に関する座学による研修と実技研修	コントラクター及びTMRセンターのオペレーター職員	(独)家畜改良センター本所(福島県)で実施、地域コントラ協議会との共催も可能	A
10	持続可能な畜産物生産に関する全国セミナー	持続可能な畜産物生産の普及を図るためのセミナー	行政・普及指導機関、試験研究機関、農協、農家、一般消費者等	事業関係団体、地元団体との共催も可	A
11	全国公共牧場運営改善研修会	公共牧場の運営改善に必要な知識及び技術の習得や公共牧場の新たな活用方法に関する研修	公共牧場管理者、地方公共団体職員、農協職員等	東京都内で開催を予定	A
12	草地難防除雑草駆除技術研修会	草地難防除雑草駆除対策の実施による効果を、周辺地域に普及させる現地研修会	畜産農家、農協職員、地方公共団体職員等	事業関係団体、地元団体との共催も可	E

注: A(草地生産性向上対策のうち飼料作物優良品種利用・安定生産対策)、B(放牧を中心とした持続的畜産普及拡大推進事業)、C(ドローン活用飼料増産技術実証事業)、D(協会実施事業)、E(草地難防除雑草駆除技術実証事業)

〈問い合わせ先〉	〈 番号(No.の欄) 〉	〈 担当者 〉	〈 E-mail 〉
TEL 03-3251-6501	1、3、11、12	伊藤	itoh@souti-fsa.or.jp
FAX 03-3251-6507	2、5、6	元村	motomura@souti-fsa.or.jp
	4、7	井上	t-inoue112@souti-fsa.or.jp
	8	橋本	r-hashimoto131@souti-fsa.or.jp
	9	東盛	tomori@souti-fsa.or.jp
	10	武田	takeda@souti-fsa.or.jp

牛が喜んで食べる高栄養牧草 ペレニアルライグラス

夏ごしペレ

越夏性に優れる！



写真1 栽培限界地域での「夏ごしペレ」の越夏後の様子（栃木県）

既存品種A：各県で奨励品種になっているベストセラー品種、既存品種B：既存の越夏性品種

より長期間の利用が可能となります

初期生育に優れる！

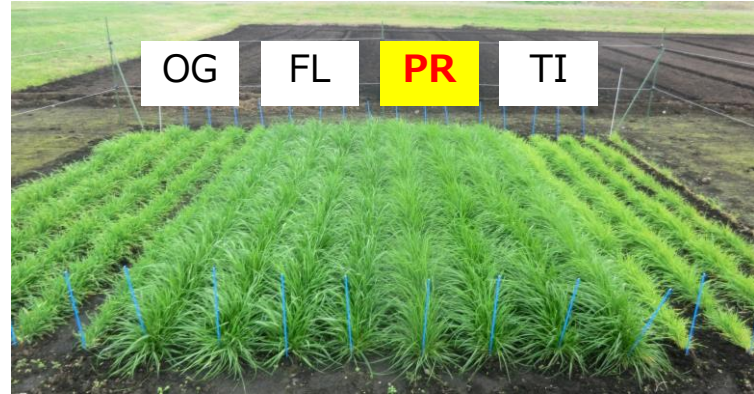


写真2 「夏ごしペレ」の初期生育（岩手県）
播種後2ヶ月後の様子

OG：オーチャードグラス、FL：フェストロリウム
PR：「夏ごしペレ」、TI：チモシー

追播利用にも適します

嗜好性に優れる！



写真3 終牧後の様子（岩手県）

オーチャードグラスの残草は多いが、「夏ごしペレ」は低くまで食べられ、残草がほとんどありません。

家畜の生産性が向上します

耐湿性に優れる！

湿害無 → 湿害有

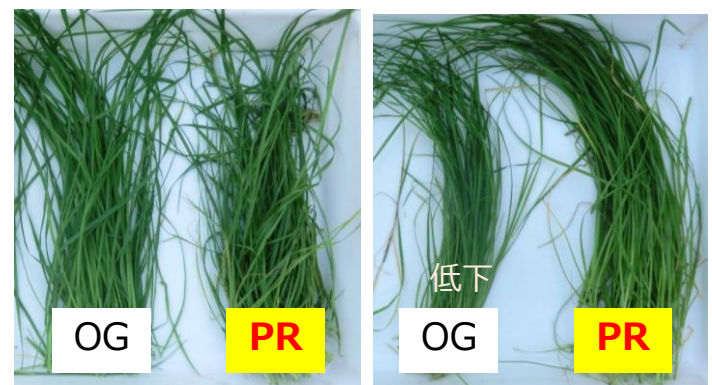


写真4 湿害処理（湛水处理）後の様子

湛水处理によりオーチャードグラス(OG)の生産性は大幅に低下しますが、「夏ごしペレ」(PR)はあまり低下しません。

水田での飼料生産にも適します

栽培適地：寒冷地（年平均気温9～12℃程度）が適地です。

用途：放牧利用を主としますが、採草利用も可能です。

早晩性：晩生品種です。

お勧めする利用方法

(特徴を生かした様々な利用場面が想定されます。以下は一例です)

栄養価・嗜好性の高いエサを作りたい方

【放牧利用】

栄養価と嗜好性に優れた草地を作るために、**嗜好性に優れた「夏ごしペレ」**による草地造成または追播を行ってください。蹄耕法による草地改善も可能です(写真5)。

【採草利用】

「夏ごしペレ」により高品質な飼料が生産できます。耐倒伏性が弱いため**「穂ばらみ期(穂が出る直前)」に収穫**してください。オーチャードグラスの早生品種の刈り取り適期と同じ時期となります。「夏ごしペレ」は乾きにくいので、**サイレージ調製**にしてください。嗜好性の高いサイレージになります。



写真5 「夏ごしペレ」を蹄耕法で追播した放牧地

家畜の嗜好性が高く、「夏ごしペレ」を選んで食べるとのこと



写真6 湿害の発生する圃場

湿害圃場では「夏ごしペレ」がオーチャードグラスよりも優占します

水田等で飼料生産を行いたい方

オーチャードグラスは湿害に弱いため、水田などでの飼料生産に適しません。湿害が発生する場合は、**湿害に強い「夏ごしペレ」**を使って草地造成または追播を行ってください(写真6)。

草地造成翌年の生産性を高めたい方

オーチャードグラスやチモシーは、利用1年目の1番草の収量が少なくなります。利用1年目の収量を増やすために、**初期生育に優れた「夏ごしペレ」**を混播種してください。その場合の播種量はオーチャードグラス播種量の1/5～1/10程度で十分です。

追播により草地年限を伸ばしたい方

温暖化により、永年草地の荒廃が早期化しています。裸地の発生により雑草が侵入しやすくなりますので、その場合は**初期生育に優れた「夏ごしペレ」**を追播してください。これにより、裸地を減らすことができます(写真7)。



写真7 「夏ごしペレ」追播採草地

オーチャード経年草地に「夏ごしペレ」を不耕起播種機で追播した採草地

「夏ごしペレ」についてもう少し知りたい方は、[コチラ](#) →



【育成機関】 お問い合わせ先：

農研機構 東北農業研究センター 研究推進部研究推進室(広報チーム)

TEL: 019-643-3414 MAIL: www-tohoku@naro.affrc.go.jp

イネWCS用 極短穂茎葉型+縞葉抵抗性シリーズ新品種！ 早生「つきはやか」、中生「つきあやか」

－ 早生化と耐病性の強化により栽培適地が拡大 －

特性のポイント

1. 出穂期

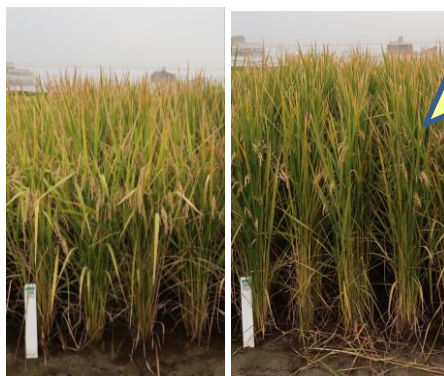
「つきはやか」は「夢あおば」(従来品種)並の早生
「つきあやか」は「たちあやか」並かやや早い中生
(感光性が弱く移植時期の変動により出穂期が前後します。)

2. 籾割合が小さい

「つきはやか」は20～25%程度。(「夢あおば」の半分)
「つきあやか」は5%程度。(「たちあやか」並)

3. 縞葉枯病に強い。

「たちあやか」の欠点である縞葉枯耐病性を改良しました。



つきはやか

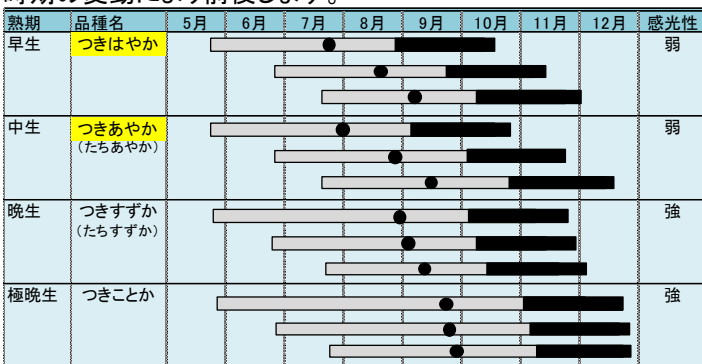
つきあやか

・高糖分で良好な発酵が期待できます。
・籾割合が低く、消化性にすぐれる茎葉が多収です。

【育成者権情報】
2品種とも登録品種。
2品種とも海外持出禁止(農水省HP参照)

■ 出穂特性-育成地(広島県福山市)でのイメージ

感光性が弱い「つきはやか」「つきあやか」の出穂期は、移植時期の変動により前後します。

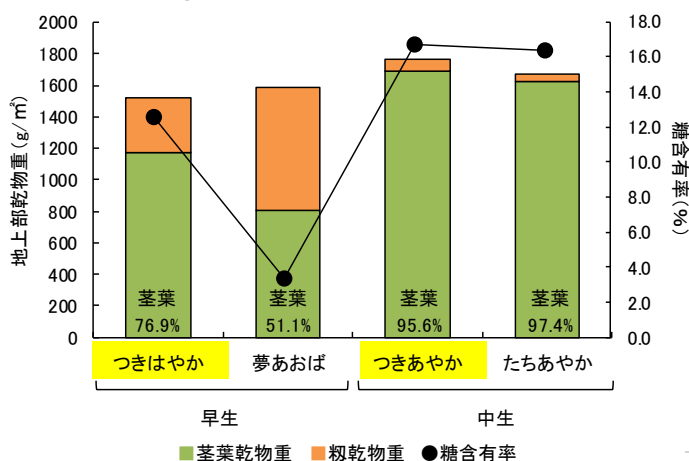


● 出穂期、■ 収穫可能時期

■ 生育特性①-育成地(広島県福山市)-

系統名	出穂期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (/m ²)
つきはやか	8.04	101	19.7	225
夢あおば	8.06	88	23.2	300
つきあやか	8.14	113	12.8	336
たちあやか	8.16	113	14.0	326

※育成地(広島県福山市)、2016～2019年の平均値。6月上旬移植、窒素施肥量:15kg/10a



■ 生育特性②-東北地域(秋田県大仙市)-

系統名	出穂期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (/m ²)	地上部 乾物重 (g/m ²)	穂重 割合 (%)
つきはやか	8.11	110	16	305	1735	13.1
夢あおば	8.03	83	22	322	1475	50.2
たちあやか	8.25	118	12	389	2000	0.6

※東北地域(秋田県大仙市)、2017～2018年の平均値。5月中旬移植、窒素施肥量:15kg/10a

■ 病虫害抵抗性

品種名	耐倒 伏性	いもち (葉穂)	縞葉 枯病	白葉 枯病	穂 発芽	除草剤
つきはやか	極強	不明	抵抗性	やや弱	やや易	非感受性
つきあやか	極強	不明	抵抗性	中	中	非感受性

栽培適地

「つきはやか」では東北中部以南
「つきあやか」では東南北部・北関東以南

「つきはやか」は東北地域への普及が、「つきあやか」は中生を要望する北関東地域などの縞葉枯病多発地帯での普及が見込まれます。関東以西においてこれら2品種と晩生の「つきすずか」などと栽培を組み合わせることにより、移植や収穫作業の分散が可能です。



栽培上の注意点

1. いもち防除は食用米品種と同様に徹底する。
2. 十分な収量や良好なサイレージの品質を確保するため出穂30～40日以降に収穫する。

イタリアンライグラス

きららワセ

登録品種
海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

早生～中生、低温伸張性に優れた4倍体品種

各地の現地実規模栽培で多収と評価の高い品種

- ☆葉幅が広く、葉は大型で多収。2倍体にはない魅力。
- ☆初期生育旺盛で低温伸張性に優れ、播種遅れにも最適。
- ☆耐病性に優れ、9月下旬～10月上旬にエンバクと混播する事例も増えています。年内はエンバクを主体に収穫、土砂混入も少なく、翌春は2～3回の収穫。
- ☆既存の4倍体晩生種と草型が異なり、立性で耐倒伏性も改善された品種です。

育成：山口県農林総合技術センター



イタリアンライグラス



↑：積雪害に強い「ナガハヒカリ」

ナガハヒカリ

中生4倍体品種

積雪地帯で長年の信頼で栽培されています。

- ・多雪地域や北東北低標高地の寒冷地に向く。
- ・畑地や水田で安定した収量確保が可能な唯一の品種です。
- ・連続積雪120日までの積雪地域に向く。

育成：農研機構（北陸農業研究センター）

イタリアンライグラス

クワトロ-TK5

登録品種
海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

早生4倍体品種 2023年より新発売です。

- ・雪腐病抵抗性を備え、東北地域で既存品種に比べ多収を示す、耐雪性品種です（根雪期間が80日程度まで多収となり、100日以上以上の地域には向きません。）。

育成：農研機構（東北農業研究センター）



イタリアンライグラス ワセユタカ

初期生育良好で長年の信頼

- ・関東以西～九州地域の通常栽培向け、早生品種。
- ・早春の低温期から生育良く、茎数多く、安定多収品種。

育成：山口県農林総合技術センター

イタリアンライグラス ワセアオバ

降雪地帯を中心に長年の信頼

- ・南東北～温暖地に向く
- ・耐寒・耐雪性やや良好なベストセラー。
- ・やや直立型で、葉幅がやや広く、安定した早生種。

育成：農研機構（北陸農業研究センター）

イタリアンライグラス ニオウダチ

草丈やや低い、耐倒伏性

- ・関東～四国、九州地域の通常栽培に向く早生品種。
- ・茎はやや太めで強く、耐倒伏性に優れる。

育成：農研機構 畜産研究部門

イタリアンライグラス はたあおば

- ・東南北部～中国四国までの積雪の少ない地域。耐倒伏性に優れる。
- ・乾物収量高く、安定した早生品種。

育成：茨城県畜産センター

登録品種 海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

イタリアンライグラス アキアオバ3

長期利用が可能

- ・北関東～九州地域に適する。
- ・4倍体で越冬性に優れる晩生品種で、極長期利用が可能。

育成：茨城県畜産センター

登録品種 海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

○ イタリアンライグラスの播種量 適期播種時：10a当たり 2～4kg。早播き・遅播き時：10a当たり3～5kg。

○ イタリアンライグラスとエンバクの混播播種量 10a当たり イタリアンライグラス：2～3kg、エンバク：4～5kg。

2023年
晩夏・秋播用

イタリアンライグラス で粗飼料不足の解消を!

国や県などで育成した優良品種の紹介

イタリアンライグラス

はやまき18

登録品種
海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

早生種で唯一のいもち病抵抗性品種



既存の早生種では困難であった早播きが可能になります。

- ☆九州など温暖地で9月中旬～10月上旬に極早生エンバクと混播、年内はエンバク主体に収穫し、翌春「はやまき18」を2回収穫する。いもち病抵抗性を活用する省力栽培です。

- ☆収量性と耐倒伏性は良好、他の早生優良品種と同様です。

- ☆地域適応性は東南北部から九州・沖縄までの広域に適する。

育成：日本草地畜産種子協会 飼料作物研究所（栃木県那須塩原市）

イタリアンライグラス

キュウシュウ ワン

Kyushu1

品種登録出願中(出願公表中)
海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

極早生種のいもち病抵抗性品種



いもち病抵抗性を上手に活用してください。

- ☆南九州平坦地9月中旬播種で年内に出穂する。

極早生エンバクと混播で年内に乾物収量を高めて収穫ができる。翌春1～2回の収穫に向く。

- ☆ソメイヨシノ開花頃の3月下旬に出穂します。

根量少なく早期水稻の作業もしやすい品種です。

- ☆早播きトウモロコシの前作栽培に適します。

育成：農研機構 九州沖縄農業研究センター（熊本県）

○イタリアンライグラスのいもち病



イタリアンライグラスいもち病

【いもち病の発病は温暖化で拡大が懸念されます。】

いもち病の感染適温は25℃前後です。

関東以西の9月～10月上旬に発病します。

イタリアンライグラスの早播き、エンバクと混播の早播きでは

いもち病の発症リスクが高まります。抵抗性品種を利用しましょう。

注意：「ガルフ」（旧名：普通種）はいもち病に極弱の品種です。



はやまき18

○ 公的機関等で育成された牧草地用優良品種

2023.7. 作成

ハレニアルライグラス 夏ごしペレ

新発売

「夏ごしペレ」越夏後の様子
2016年9月6日 栃木県那須塩原市



品種 B

夏ごしペレ

品種 A

育成：農研機構 東北農業研究センター、山梨県

品種登録出願中
海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

- ・年平均気温 9～12℃の寒冷地向き。
- ・越夏性が向上。
- ・初期生育、栄養価に優れ、放牧地の追播や採草利用も可能。
- ・排水不良な転作田でも利用可能。

フェストロリウム 那系1号



育成：畜産草地研究所

登録品種 海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

- ・東北地方から比較的冷涼な温暖地までに適する。
- ・耐湿性に優れ水田転換畑などに向く。採草利用。

ハレニアルライグラス ヤツカゼ2



育成：山梨県

登録品種 海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

- ・中生
- ・本州の積雪地や高冷地に向く。
- ・栄養価に優れる。
- ・放牧、採草利用いずれも可。

オーチャードグラス

アキミドリⅡ



- ・早生。
- ・東北北部～九州の高冷地向。
- ・耐暑性に優れる。
- ・放牧、採草利用いずれも可。
- ・うどん粉病に強い。

育成：農研機構 畜産研究部門

オーチャードグラス

まきばたろう



- ・中生。
- ・東北北部～九州の高標高地。
- ・永続性に優れる。
- ・さび病などの病害に強い。

育成：農研機構 畜産研究部門

登録品種 海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

ハイブリッドライグラス

ハイフローラ



- ・中生の4倍体。
- ・本州の高冷地、準高冷地で越夏性、越冬性に優れ、採草利用向き。

育成：山梨県



チモシー クンプウ

- ・極早生。採草利用向。
- ・東北北部、高冷地向。
- ・茎径太く、再生力も旺盛。

育成：北海道立総合研究機構 北見農業試験場



ギニアグラス うーまく

- ・南西諸島向き。
- ・極晩生で極多収。
- ・耐倒伏性で再生力良好で、永続性に優れる。

登録品種 海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

育成：沖縄県



ギニアグラス ナツカゼ

- ・関東南部～九州南部向。
- ・青刈り、乾草、ロールペール利用可。
- ・刈りセンチュウ低減効果有。緑肥利用多。

育成：農研機構 九州沖縄農業研究センター

2023年
晩夏・秋播用

短期栽培作物 エンバク で粗飼料不足の解消を！ 農研機構で育成した優良品種紹介

エンバク 極早生の中

たちあかね

登録品種
海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

耐倒伏性で評価されています。



出穂期の早晩は極早生の中、多数の現地実証栽培で評価されました。

- ・倒伏に強く、早播き年内収穫は多収。遅播きの翌春収穫も多収。
- ・イタリアンライグラスと混播の翌春収穫も多収。耐病性も強い。
- ・播種量：（通常播種時）4～8 kg/10a
（イタリアンライグラスとの混播時）イタリアンライグラス 2～3kg/10a
+ エンバク 4～6kg/10a

○ エンバク「たちあかね」とイタリアンライグラスいもち病抵抗性極早生品種「Kyushu 1」、同早生品種「はやまき18」との作付体系例
イタリアンライグラスとエンバクの混播で多収。9月播種のイタリアンライグラスはいもち病抵抗性を活用する。

○:播種、▼:収穫	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
混播「Kyushu1」+「たちあかね」	○	-----	K+た-▼	-----	K-▼				
混播「はやまき18」+「たちあかね」	○	-----	は+た-▼	-----	は-▼				
混播「はやまき18」+「たちあかね」			○	-----	は+た-▼	-----	は-▼		

エンバク 極早生の中

はえいぶき



- ・たおれに強く多収。「たちあかね」より若干早生。
- ・東南北部から九州までの年内出穂期利用が可能。
- ・播種が9月下旬に遅れても九州では年内出穂が可能。
- ・播種量：（通常播種時）4～8 kg/10a
（イタリアンライグラスとの混播時）イタリアンライグラス 2～3kg/10a
+ エンバク 4～6kg/10a

エンバク 極早生の中

たちいぶき

登録品種(2023年8月19日まで)
海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)



- ・サツマイモネコブセンチュウの抑制効果が確認されている。サツマイモ栽培畑の緑肥に最適、飼料生産も良好な品種です。
- ・倒伏に強く多収。冠サビ病抵抗性は極強。
- ・播種量4～8 kg/10a（緑肥は多めに播種）



（センチュウ抑制効果の実証例）
夏播き栽培の年内収穫後の圃場ではセンチュウ密度が低下し、翌春、その圃場にサツマイモを栽培すると写真のような差が見られました。

○ 記載の牧草種子は、農協・専門農協・種苗店にご注文下さい。当協会の牧草種子取り扱い会員は ホクレン、雪印種苗(株)、カネコ種苗(株)、JA全農、全酪連、タキイ種苗(株)、宝種苗(株)、(株)宮崎緑肥、日本緑農(株)等です。

一般社団法人 日本草地畜産種子協会 03-3251-6501
東京都千代田区神田紺屋町8 NCO神田紺屋町ビル

飼料作物研究所（那須塩原市）0287-37-6755
九州試験地（熊本県合志市）096-348-3445

公的機関で育成した牧草品種の紹介

都府県
向け

2023年7月



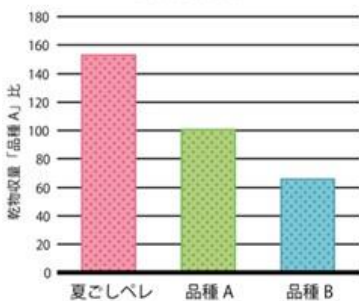
2022年より新発売です！

ペレニアルライグラス 夏ごしペレ

新発売

越夏後の収量（3ヶ年4試験平均）

栃木県那須塩原市



「夏ごしペレ」越夏後の様子

2016年9月6日 栃木県那須塩原市



品種B

夏ごしペレ

品種A

栽培 年平均気温 9～12℃
適地 の寒冷地向き

- ・越夏性が向上。
- ・初期生育、栄養価に優れ、放牧地の追播や採草利用も可能。
- ・排水不良な転作田でも利用可能。

育成：東北農業研究センター
山梨県

品種登録出願中・海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）



チモシー

クンプウ

栽培 東北北部、高冷地
適地

- ・極早生。直立型で茎は太い。
- ・再生力も旺盛な採草利用。

育成：北見農業試験場



オーチャードグラス

まきばたろう

栽培 東三北部（高標高地除く）～
適地 九州（標高700m程度以上）

- ・中生。永続性に優れ利用4年目でも収量の低下が少ない。
- ・さび病、雲形病、うどんこ病などの病害抵抗性に優れる。

育成：畜産草地研究所（栃木県）



オーチャードグラス

アキミドリⅡ

栽培 東三北部～九州の高冷地に
適地 適する

- ・極早生。耐暑性に優れる温暖地向き放牧・採草兼用品種。
- ・特にうどんこ病に強い。

育成：畜産草地研究所（栃木県）

一般社団法人日本草地畜産種子協会 03-3251-6501
東京都千代田区神田紺屋町8 NCO神田紺屋町ビル

飼料作物研究所（那須塩原市）0287-37-6755
九州試験地（熊本県合志市）096-348-3445

トールフェスク 「ウシブエ」

栽培適地 東南北部～九州まで栽培が可能

- ・中生。寒地型牧草の中では永続性と越冬性に優れ、深根で栽培地の土壌環境の適応性に優れる。
- ・放牧利用や採草利用が可能で、出穂後は嗜好性や消化率が低下しやすい。

育成：九州沖縄農業研究センター

登録品種・海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

ギニアグラス 「ナツカゼ」

栽培適地 関東南部～九州南部

- ・青刈り、乾草、0-10% 利用可。
- ・刈り残し低減効果有。
- ・緑肥利用可

育成：九州沖縄農業研究センター



フェストロリウム 「那系1号」



栽培適地 東北部から比較的冷涼な温暖地までに適す

- ・耐湿性に優れ水田転換畑などに向く。採草利用。
- ・冠さび病抵抗性に優れる。

登録品種・海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

育成：畜産草地研究所（栃木県）

ハイブリッドライグラス 「ハイフローラ」



栽培適地 本州の高冷地、準高冷地に向く

- ・中生の4倍体
- ・栄養価に優れる。
- ・越冬性、越冬性に優れる。
- ・採草利用いずれも可。

育成：山梨県

フェストロリウム 「東北1号」



種子増殖中

登録品種・海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

栽培適地 東北部の中標高以下、東南部の太平洋側～関東・東山の中標高地

- ・イタリアンライグラスなど越冬性が不十分な地域での採草利用。
- ・耐湿性に優れ転作田に向く。

育成：東北農業研究センター

シロクローバ 「マキバシロ」

栽培適地 東北部～九州

- ・中葉型、イネ科牧草との競合力に強く、永続性も高い。放牧、採草。

育成：北海道農業研究センター

アカクローバ 「ナツユウ」

栽培適地 高冷地

- ・混播で採草の栄養価を高める。

育成：北海道農業研究センター

登録品種・海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

ギニアグラス 「うーまく」



登録品種・海外持出禁止（公示（農水省HP）参照）

栽培適地 南西諸島

- ・多年利用の採草用。
- ・水はけの良い土地で栽培。多収で倒伏にも強い。

育成：沖縄県畜産研究センター

アルファルファ 「ネオタチワカバ」

栽培適地 東南北部～九州

種子増殖中

育成：愛知県農業総合試験場

【混播例；数値の単位は全て kg/10a】

○放牧草地【高冷地】

オーチャードグラス	2.0
ペレニアルライグラス	0.5
トールフェスク	0.5
シロクローバ	0.2

○採草地【東北地域の高冷地】

チモシー	2.0
オーチャードグラス	0.5
シロクローバ	
またはアカクローバ	0.2

○採草地【一般地域の高冷地】

オーチャードグラス	2.5
ペレニアルライグラス	
またはトールフェスク	0.5
シロまたはアカクローバ	0.2

草地更新の目安

- ①草地造成後年数が経過し土壌も硬くなり収量も低下
- ②裸地が多くなり雑草の侵入や夏枯れも目立つ
- ③雑草が繁茂し造成時の草種が少ない

- ①簡易更新の検討が必要です
- ②簡易更新の計画表を作成しましょう
- ③簡易更新や完全更新が必要です

4. 令和6年播種用飼料用イネ種子の供給について

販売する品目

- ① 令和5年産種子
- ② 令和4年以前に生産した在庫種子

※いずれも、発芽検査に合格したロットのみを販売します。

販売スケジュール

- ① 予約販売 令和5年7月3日～11月30日

先着順で受け付けます。
販売期間内で追加・変更が可能です。
12月に確認書を送付します。

- ② 当用販売 令和6年1月4日～1月26日

生産数量が①の予約数量を上回った場合に受け付けます。申込数量が販売可能数量を超えた場合は申込数量で按分します。

- ③ 追加販売 令和6年3月1日～5月31日

①と②の販売後に種子在庫があれば、順次受け付けます。

予約販売による種子配送時期は、令和5年生産種子が令和6年2月中旬以降、在庫種子が令和6年1月中旬以降となります。
鉄コーティング等で早めに種子を入手したい方は、**在庫種子の予約販売でご注文ください。**

ホームページをご覧くださいと詳細が確認できます。

ご不明な点がございましたら、当協会までお問合せください。

TEL：03-3251-6501 （担当：山渕）

5. 牧草飼料作物・飼料用稲 現地実証展示は設置の手引き

令和5年度は牧草飼料作物及び飼料用稲の現地実証展示は以下の通り実施する予定です。

1. 展示はに用いる草種・品種は、別添の令和5年度播種用「展示は対象優良品種と特性等の一覧」を参考に、当該地域に適合する草種・品種を選択願います。
なお、種子数量により希望者多数の場合は先着を優先とします。
2. 展示は栽培面積は 永年牧草 1ヘクタール、飼料作物（単年生作物）及び飼料用稲は 50アールを上限とします。
3. 当協会が負担する金額は「種子代金」（原則として当協会から現物で種子を供給することとし、種子送料を含みます。）と「展示は看板製作資材費」（展示は1箇所あたり 5,000円を上限とします。）のみとします。
4. 展示はの栽培者をご紹介いただける方は、下記お問い合わせ先にご連絡願います（春播き：5月末まで、秋播き：9月末まで）。当協会から「栽培者紹介」表（別紙様式第1号）のエクセルファイルをメールにてお送りいたしますので、必要事項を記入のうえ返送願います（PDF等に変換せず、必ずエクセルファイルのままで返送願います。）。
5. 展示は設置依頼書
→提出いただきました「栽培者紹介」表に基づき、別紙により、当協会で設置者名を記入の上、紹介機関宛に送付いたします。
6. 展示は設置承諾書（別紙様式第2号）
→当協会で作成し、設置者名を記入の上、紹介機関宛に送付いたします。
承諾者から押印をいただいた上で、紹介機関より当協会に返送願います。
7. 展示は調査報告書（別紙様式第3号）
→報告書は紹介機関を通じて以下の期限までに提出していただきます。
春播き単年生作物及び飼料用稲 令和6年 1月31日
秋播き単年生作物 令和6年 9月30日
永年牧草 令和6年12月27日
(当協会から種子を供給し、報告書未提出の場合は、種子代金を請求いたします。)
8. 請求書（別紙様式第4号）
→紹介機関を通じて提出していただきます。
(当協会から種子を供給した場合は、請求は看板製作資材費のみです。)
(栽培地で種子を購入した場合は、種子購入代金及び看板製作資材費のみです。)
請求時には製作した看板写真及び展示はに設置した看板写真もしくは調査報告書（別紙様式第3号）の提出が必要です。
9. 展示は看板シート
当協会から紹介機関宛に送付いたします。
・看板シートサイズ 高さ 約42cm × 幅 約60cm
・のり付きですがコンパネ等に貼り付ける場合、画鋲で固定して使用してください。

以上

お問い合わせ：

一般社団法人日本草地畜産種子協会

電話：03-3251-6501 FAX：03-3251-6507 種子部 元村、伊澤

E-mail：motomura@souti-fsa.or.jp

【別添】

○飼料作物優良品種利用・安定生産対策 高能力新品種の普及推進 (都府県用)

2023 年度 播種用 「展示ほ対象 優良品種 と特性等の一覧」

一般社団法人 日本草地畜産種子協会

2023 年 7 月

草 種	品種名・系統名	早晩性	主な特性	地域	販売状況
イタリアン ライグラス ＊播種は天候と 作業の都合から 遅れがちになっ ています。 適期より早め の播種ではいも ち病抵抗性品種 の選択が必須で す。	「Kyushu 1」 キュウシュウワン (2 倍体) 出願品種	極早生	極早生種でいもち病抵抗性が強化された新品種です。 西南暖地の 9 月～10 月上旬の播種で発症が懸念されるいもち病に対し抵抗性があります。西南暖地では 3 月中に出穂期となり乾物率、乾物収量も高くなります。 また、根量は少なく、早期水稻の作付け作業に移行しやすい品種です。 早播き飼料用トウモロコシの栽培体系の前作にも適しています	南東北 ～沖縄	販売中
	「はやまき 18」 いもち病抵抗性 (2 倍体) 登録品種	早生	早生品種初のいもち病抵抗性品種です。 特に晩夏播き年内収穫のエンバク混ぜ播きでは、下葉の繁茂などからいもち病の発症リスクが高まります。いもち病抵抗性品種の利用は必須です。 今後、特に温暖な地域では安定生産に欠くことができない品種です。 「はやまき 18」の耐倒伏性や収量性は、他の早生種の改良品種と同レベルです。 ＊育成場所は栃木県で、栽培地域は東南北部～九州・沖縄までの広域に適します。		販売中
	「きららワセ」 (4 倍体) 登録品種	早生の やや晩	4 倍体品種の多くは晩生種で、草姿は一般的に匍匐型が多い中で、「きららワセ」の草姿は立型で、出穂は早生種のやや晩と早く、初期生育は 4 倍体の特性を示し旺盛で低温伸長性にも優れ、播種遅れにも対応できる品種です。 葉幅が広く、葉はやや長く、茎径はやや大柄な草姿で多収です。耐倒伏性は他の 4 倍体品種と比べて「強」で、他の 2 倍体の改良品種と比べても「やや強」です。 いもち病抵抗性は「中」で、冠さび病抵抗性は「強」です。		販売中
	「クワトロ- TK5」 (4 倍体) 登録品種	早生	雪腐病抵抗性を備え、東北地域で既存品種に比べ多収を示す、耐雪性品種です(根雪期間が 80 日程度までの地域で多収となり、100 日以上地域には向きません。)。北陸、北関東、山陰などで、すでにイタリアンライグラスを作付けされている地域において、多雪年に備えての利用を推奨しています。 東北地域では「クワトロ-TK5」の収穫後にトウモロコシを作付けでき、冬期にイタリアン、夏期にトウモロコシを作る 2 毛作体系が可能です。	東北 ～九州	R5 年 より 新発売

注意 いずれの品種も 海外持出禁止 (公示 (農水省 HP) 参照)

草 種	品種名・系統名	早晩性	主な特性	地域	販売状況
ペレニアル ライグラス	「夏ごしペレ」 (4 倍体) 出願品種 ※年平均気温が9～ 12℃程度の場所を 候補とさせていただきます。	晩生	夏ごしペレの年間収量は、既存品種ヤツユメよりも優れており、特に越夏性を向上させたことで越夏後の収量はヤツユメ比で 150%強（3 ヲ年4 試験平均；栃木県那須塩原市）を示しました。 放牧・採草兼用品種です。 ペレニアルライグラスの特長である、定着の早さ、再生草勢が優れることにより、荒廃草地への追播などで植生改善につながります。栄養価も高く、嗜好性も向上することから、夏場の摂食量減退による乳量低下といった課題にも対応します。	東北～ 九州の 高冷地	R4 年 より 新発売
オーチャード グラス	「まきばゆうか」 出願品種 ※試作用種子量に制限がありますので、 アキミドリⅡの栽培 経験のある栽培者を 優先に候補とさせていただきます。	極早生	まきばゆうかの年間収量は、既存品種アキミドリⅡよりも関東以西では優れており、東北地方ではアキミドリⅡ並です。越夏性が向上しており、特に温暖地で良好な越夏性を示します。葉腐病、小さび病、黄さび病への抵抗性が改良されています。草丈はアキミドリⅡと同程度かやや高く、2 番草以降は明らかに高くなります。	東北～ 九州の 中標高地	R 7 年以 降の販売 予定
	「きよは」 出願品種 ※試作用種子量に制限がありますので、 まきばたろうの栽培 経験のある栽培者を 優先に候補とさせていただきます。	中生	きよはの年間収量は、既存品種まきばたろうよりも優れています（東北～関東 6 場所平均）。越夏性に関連する葉腐病のほか、小さび病、黄さび病すじ葉枯病、うどんこ病といった各種病害への抵抗性が改良されています。低温伸長性が改良されたことから、早春および晩秋の草勢が優れます。耐倒伏性も改良されており、まきばたろうよりやや優れます。 採草および放牧に利用可能です。	東北～ 九州の 中標高地	R 7 年以 降の販売 予定

注意 いずれの品種も 海外持出禁止（公示（農水省 HP）参照）

草 種	品種名・系統名	早晩性	主な特性	地域	販売年次
飼料用稲 ※ 飼料用稲は 実施件数に制限 があります。 （お問い合わせ 願います。）	「つきはやか」 出願品種	早生	極短穂茎葉型 稲 WCS 用専用品種です。 東北では「夢あおば」より 1 週間早い早生になります。暖地でも「たちあやか」より 12 日程早くなります。東北中南部以南～九州向きで、特にこれまで WCS 専用品種の栽培が困難であった東北での普及が期待されています。縞葉枯病抵抗性であり、耐倒伏性は「たちすすか」並みの極強です。糖含量が「たちすすか」並みに高く、発酵品質及び嗜好性ともに良くなります。	東北中南部以南～九州	R4 年 より 新発売
	「つきあやか」 出願品種	中生	極短穂茎葉型 稲 WCS 用専用品種です。 「たちあやか」より 2 日程早い中生で、東北中南部～九州向き。「たちあやか」の弱点であった縞葉枯病への抵抗性を備えました。耐倒伏性は「たちすすか」並みの極強です。糖含量が「たちすすか」並みに高く、発酵品質及び嗜好性ともに良くなります。	東北中南部～九州	R4 年 より 新発売
	「つきすすか」 登録品種	晩生	極短穂茎葉型 稲 WCS 用専用品種です。 縞葉枯病に対し抵抗性を持ちます。穂長は短く、籾重も少なく、稈長は高いが重心が低いことから耐倒伏性に優れます。糖分含量が高いことから、サイレージの発酵品質及び嗜好性の向上が期待できます。消化されやすい茎葉の割合が高く、消化されにくい籾の割合が低くなります。WCS 生産では、早植え、多肥栽培が有効とされています。	関東以西～九州	販売中
	「つきことか」 登録品種	極晩生	極短穂茎葉型 稲 WCS 用専用品種です。 穂長は極短で、籾重は 2% 程度で地上部はほぼ茎葉となります。収量は「たちすすか」比で 2 割ほど多収となります。晩植（6 月下旬移植）でも籾重は増えないことから、麦後などの晩植栽培でも茎葉多収となります。縞葉枯病に対し抵抗性を持ちます。糖含量が高いことから、発酵品質及び嗜好性ともに良くなります。極長稈となりますので、栽培時は疎植にするなど倒伏のリスクを避けるよう努めて下さい。	東海以西～九州	販売中

注意 いずれの品種も 海外持出禁止（公示（農水省 HP）参照）

6. 令和5年度飼料生産組織等従事者技術向上対策事業 研修計画

研修番号	1	2
研修名	基礎研修	講師派遣による研修
場所	家畜改良センター(本所) 中央畜産研修施設 福島県西白河郡西郷村大字小田倉 字小田倉原 1	各県コントラクター協議会等が希望する場所
研修内容	飼料作物の栽培・収穫等の基本技術とその留意点等についての講義と実技	専門家の派遣による牧草、サイレージ、収穫作業、農作業の安全等について、座学による研修会
予定時期	12月4日～8日(予定)	随時
定員	20名程度	20～30名程度
実施期間	5日間	半日程度
講師	農研機構等の講師及び家畜改良センター担当官	農研機構の講師等
申込締切	10月13日(予定)	開催希望日の3ヶ月前
備考	中央畜産研修施設に宿泊	

7. 放牧畜産基準認証制度のご紹介



放牧は、土-草-家畜という資源循環型畜産であり、次のような効果があります。

- 省力的で、労働時間が減少し、ゆとりが生まれます。
- 地域の土地や草資源（耕作放棄地など）を有効に利用することができます。
- 低コストに畜産物を生産できます。
- 機械利用が減ることで化石燃料の使用量が低減し、環境負荷の低減につながります。
- 家畜の健康保持やアニマルウェルフェアの観点から優れています。
- 放牧で生産された畜産物には、β-カロテンなどの機能性成分が多く含まれます。

放牧には上記の効果があり、国連が目指すSDGs（持続的開発目標）に即した農業と言えます。最近では、放牧関連の機器や技術が進展し、新規就農にも適していることから、放牧が再評価されています。このような放牧を日本国内に広め、放牧で生産される良質な畜産物を消費者に届けるために、「放牧畜産基準認証」制度が創設されました。

どんな制度？

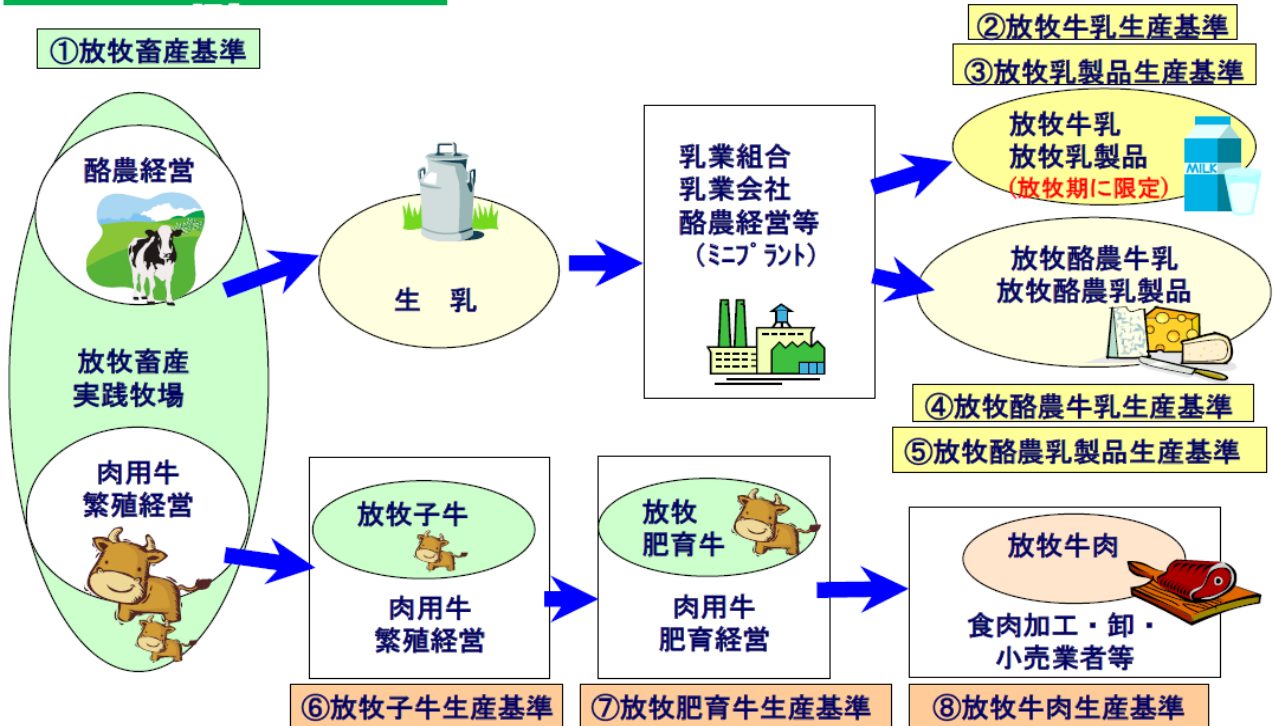
- 一般社団法人 日本草地畜産種子協会が創設したもので、海外には類似の制度がみられない日本独自の認証制度です。
- ・平成21年に創設され、現在100団体以上が認証を受けています。
- ・認証基準は、放牧を実践する牧場で機能性成分が畜産物に移行するのに十分な放牧草を採食できるように1頭当たりの放牧地面積等を定めています。
- ・また、牛乳、牛肉などの生産物の流通・加工・販売業者向けに、認証マークを添付してアピールできるように、7つの生産基準が設けられています。

放牧畜産基準認証制度の概要

認証制度とは

生産者側だけでなく消費者側に放牧畜産物がもつ機能性成分やアニマルウェルフェア等について訴求し、放牧を推進するため「放牧畜産基準」を創設し、その認証制度を平成21年4月にスタートしました。

生産物の流れと認証基準



どうやって取得するの？

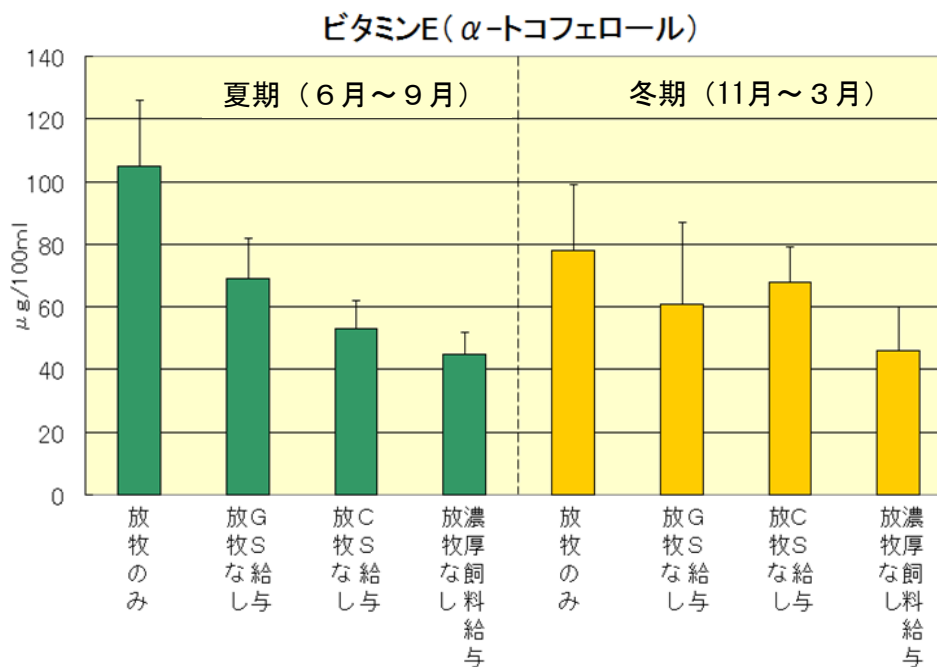
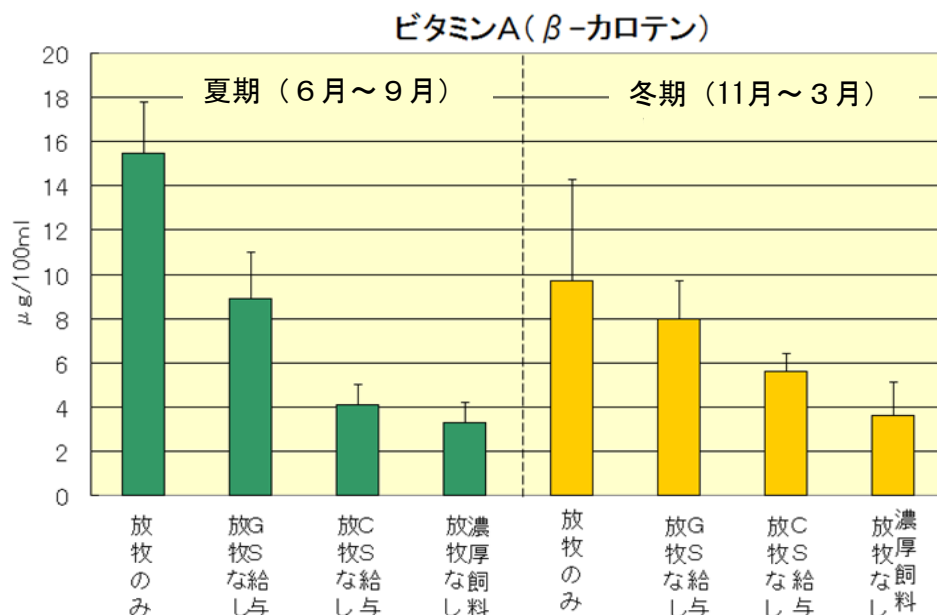
認証取得を希望される牧場や乳業会社等は、府県の草地協会等を通じるか直接日本草地畜産種子協会に申請します。申請すると、審査員が牧場等に立ち入り、聞き取りや現地確認を行い、協会内の審査委員会で判定します。認証マークの使用を希望される場合は、マーク使用許諾を申請します。

申請書は日本草地畜産種子協会のHPにあります。

認証マークとは？

認証マークは、右のとおりです。





(注)

ビタミンA (β -カロテン)：脂溶性ビタミンで、抗酸化作用、免疫調整作用を有します。

ビタミンE (α -トコフェロール)：脂溶性ビタミンで、強い抗酸化作用を有し細胞の老化防止作用を有します。

G S 給与：グラスサイレージを多給、C S 給与：コーンサイレージを多給

放牧牛肉では**カルニチン**（脂肪の体内燃焼に不可欠で、スタミナ源としての効果が期待されています）、**クレアチン**（筋肉エネルギー代謝に関わり、筋力増強の効果があります）、**カルノシン**（抗酸化機能を有し、運動時の筋肉中乳酸蓄積を軽減します）等の機能性成分が増加します。

具体的な放牧に関する基準は？

植生	成牛換算 1 頭当たり 放牧地面積	放牧期間	1 日の放牧時間
牧草地	25a以上（ただし宮古島以西の先島諸島地域では15a以上）	自然条件から見て放牧可能な全期間	昼夜放牧又は夜間あるいは昼間放牧
	15a以上	自然条件から見て放牧可能な全期間	夜間放牧又は昼間放牧に限る
シバ型草地※	45a以上	自然条件から見て放牧可能な全期間	昼夜放牧又は夜間あるいは昼間放牧
野草地	90a以上	自然条件から見て放牧可能な全期間	昼夜放牧又は夜間あるいは昼間放牧
	40a以上	自然条件から見て放牧可能な期間のうち100日以上とし、野草が衰退してきた場合は、草地への転換を行うことを条件とする。	昼夜放牧又は夜間あるいは昼間放牧

家畜 1 頭当たりの放牧地面積、放牧期間及び 1 日の放牧時間は、**放牧によって牛が十分な粗飼料摂取を可能とし、かつ、草資源の再生力を持続的に維持することが可能なものとする。**

※（注）当該基準におけるシバ型草地とは、いわゆるノシバ（*Zoysia japonica*）が優占した草地である。

認証取得のメリットは？

●農家のメリット

- ・生産コストの低減による農業所得の向上、6次産業化への取り組みの促進につながる。
- ・認証により、消費者からの信頼度が高まる。生産者自らの飼養管理技術や経営管理の見直しにもつながり、生産者責任の明確化で他との差別化、経営の改善に役立つ。

●販売者のメリット

- ・放牧畜産物に認証マークを付けることによって、消費者から「**本物の放牧畜産物**」として**認識**され他の商品との差別化ができる。

●消費者のメリット

- ・**機能性成分に富んだ**本物の放牧畜産物の購入が可能になるとともに、**地球温暖化防止、アニマルウェルフェア**、地域振興に貢献できる。また、生産者との交流も期待できる。

●地域・全体のメリット

- ・放牧技術の情報交換や連携が進み、**地域における放牧畜産の振興**を図ることができる。
- ・地域ぐるみの認証取得によって、認証付き放牧畜産物の生産量が増大し、**地域ブランド化**に役立つ。学校給食、病院食、介護施設に使用することによって**住民福祉の一助**にもなる。
- ・食料・環境問題に関心が高い消費者に対して、放牧畜産物を生産している地域、あるいは畜産全体の**イメージアップ**につながる。

8. 飼料稲給与畜産物認証制度のご紹介

1. 制度の目的

飼料用米や稲発酵粗飼料（稲WC S）を家畜に給与して生産された鶏卵、食肉、牛乳・乳製品が機能性成分等の有用成分に富むことに着目し、国産の飼料用米及び稲WC Sを給与する家畜の飼養基準及びその家畜から生産される鶏卵や食肉、牛乳・乳製品の生産基準を定め、消費者に機能性に富んだ飼料用米や稲WC Sを給与した畜産物を訴求し、飼料用米及び稲WC S給与畜産物の消費拡大を図ります。

これにより、飼料用米や稲WC Sの生産拡大を通じ水田の有効活用や食料自給率向上に寄与するとともに、飼料用米や稲WC Sを給与する畜産経営の6次産業化等の推進による所得向上に資することを目的としています。

2. 認証の種類

現在までの試験研究の結果に基づき、飼料用米及び稲WC Sを給与することによって機能性成分等の有用成分が向上するものについて、以下のとおり家畜の飼養基準とその家畜から生産される畜産物の生産基準の2種類の認証基準を畜種ごと、畜産物ごとに設定しています。

飼養基準は飼料用米や稲WC Sを給与して肉用鶏、採卵鶏、肉豚、肥育牛、乳用牛を飼養する畜産経営者を認証の対象とし、生産基準はこれらの鶏、豚、牛から生産された鶏肉、鶏卵、豚肉、牛肉、牛乳・乳製品を製造、販売する者を認証の対象としています。認証の種類は以下のとおりです。

畜 種	認証の種類			
	飼料用米給与		稲WC S給与	
	飼養基準	生産基準	飼養基準	生産基準
肉用鶏	飼料用米給与 肉用鶏飼養基準	飼料用米給与 鶏肉生産基準	—	—
採卵鶏	飼料用米給与 採卵鶏飼養基準	飼料用米給与 鶏卵生産基準	—	—
肉 豚	飼料用米給与 肉豚飼養基準	飼料用米給与 豚肉生産基準	—	—
肥育牛	飼料用米給与 肥育牛飼養基準	飼料用米給与 牛肉生産基準	飼料稲給与 肥育牛飼養基準	飼料稲給与 牛肉生産基準
乳用牛	—	—	飼料稲給与 乳用牛飼養基準	飼料稲給与牛乳・ 乳製品生産基準

3. 畜種ごと、畜産物ごとの認証基準の概要

別表をご参照下さい。

(別表) 畜種別の飼料用米及び稲WCS飼養基準(飼料用米又は稲WCSの給与量と給与期間)

種類	畜産物の訴求項目	飼 養 基 準	
		給与量(割合) ※1	給 与 期 間
肉用鶏	【飼料用米】 遊離アミノ酸総量の増加	【給与する配合飼料中の飼料用米の含有割合】 配合飼料中の玄米が40%以上 (モミ米の場合は1.25倍に換算して50%以上) ※2	左記の飼料用米を、肉用鶏を出荷する日まで、継続して21日間(3週間)以上、給与していること
採卵鶏	【飼料用米】 ビタミンEの増加 卵黄色の変化(白くなる)	【給与する配合飼料中の飼料用米の含有割合】 配合飼料中のモミ米が30%以上 (玄米の場合は0.8倍に換算して24%以上)	左記の飼料用米を、産卵する日の14日(2週間)以上前から継続して給与していること
肉豚	【飼料用米】 リノール酸の減少やレイン酸の増加	【給与する配合飼料中の飼料用米の含有割合】 ア 配合飼料中の玄米が30%以上 (モミ米の場合は1.25倍に換算して38%以上) ただし、米サイレージを給与した場合は給与重量を玄米に換算 ※3	①左記の飼料用米を、肉豚を出荷する日まで、継続して45日間以上、給与していること
		イ 配合飼料中の玄米が15%以上 (モミ米の場合は1.25倍に換算して19%以上) ただし、米サイレージを給与した場合は給与重量を玄米に換算 ※3	②左記の飼料用米を、肉豚を出荷する日まで、継続して60日間以上、給与していること
肥育牛	【飼料用米】 レイン酸の増加	【給与する配合飼料中の飼料用米の含有割合】 配合飼料中の玄米が30%以上 ただし、米サイレージを給与した場合は給与重量を玄米に換算 ※3	左記の飼料用米を、肥育牛を出荷する日まで、継続して20ヶ月以上、給与していること
肥育牛	【稲WCS】 ビタミンE(トコフェロール類)の増加	稲WCSの給与量が1日1頭当たり原物3kg以上	左記の稲WCSを、肥育牛を出荷する日まで、継続して180日間(6ヶ月)以上、給与していること
乳用牛	【稲WCS】 ビタミンE(トコフェロール類)の増加	【給与する全飼料中の稲WCSの給与割合】 全飼料中の稲WCSの乾物給与量が飼料乾物中で20%以上 ※4	左記の稲WCSを、出荷する生乳を搾乳する日からさかのぼって30日(1ヶ月)以上前から継続して給与していること

※1 飼料用米の給与量(割合)には、給与した配合飼料に含まれている国産飼料用米を全て含む

※2 玄米及びモミ米の水分含量の基準値は15±1%を想定。各畜種の飼養基準において同じ

※3 米サイレージ(ソフトグレインサイレージ SGS)を玄米に換算する場合は、モミ米SGSは0.6、玄米SGSは0.75をSGS原物重量に乗ずる

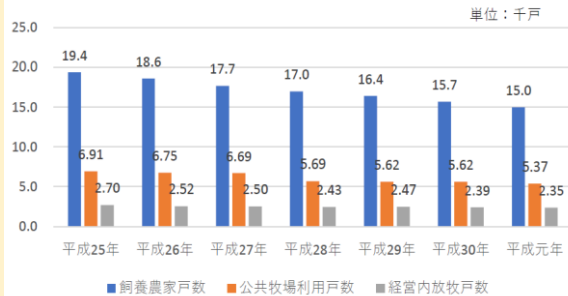
※4 稲WCSの乾物換算は、原物重量の1/3

9. 放牧を中心とした持続的畜産普及拡大推進事業（継続）

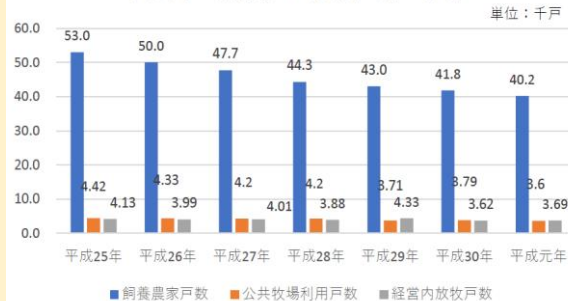
放牧の現状

家畜飼養戸数が減少する中、放牧戸数の割合は増加傾向

乳用牛の放牧戸数の推移



肉用牛（繁殖）の放牧戸数の推移



参考：農林水産省HP

放牧普及上の課題

- 畜産農家を指導する者の技術不足
- 畜産農家の放牧への取組意欲の不足
- 消費者への放牧畜産物の周知不足

放牧は、土－草－家畜が結び付いた
資源循環型畜産



国連が目指すSDGsに即した農法であり、みどりの食料システム戦略や持続的な畜産物生産の在り方検討会の将来像を具現化する農法

効果



- 省力的で、農業者の労働時間が減少
- 低コストで畜産物生産
- 化石燃料の使用量の低減による環境負荷の低減
- 家畜の健康やアニマルウェルフェアの向上
- 放牧畜産物は、β-カロテンなどの機能性成分が豊富

酪農経営（集約放牧）



図3：酪農経営のコスト比較（試算例）

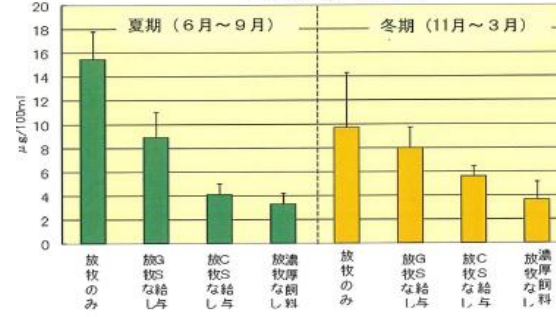
肉用牛繁殖経営



図2：肉用牛繁殖経営のコスト比較（試算例）

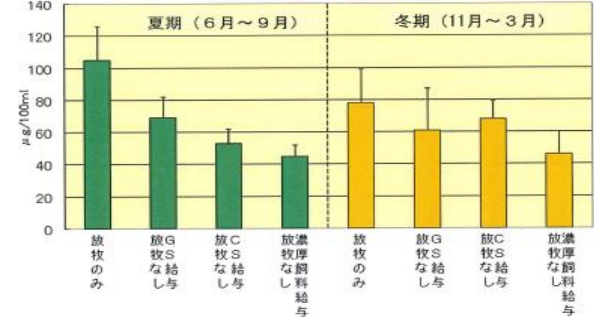
参考：農林水産省HP

ビタミンA(β-カロテン)



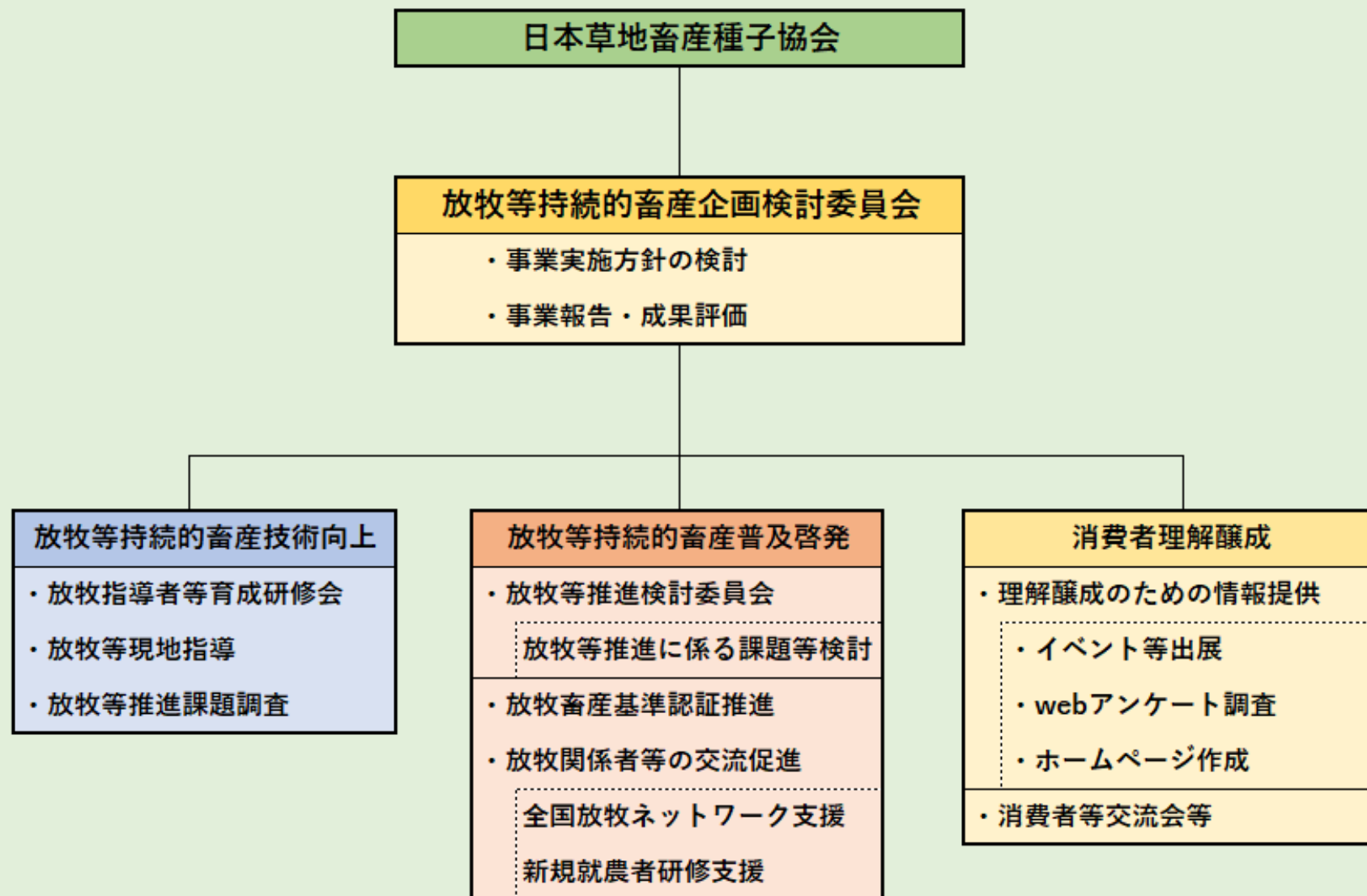
(注) GS：グラスサイレージ
CS：コーンサイレージ

ビタミンE(α-トコフェロール)



(参考) ビタミンEは抗酸化作用、免疫調整作用、ビタミンA抗酸化作用、細胞の老化防止作用を有する

放牧を中心とした持続的畜産普及拡大推進事業の枠組み



10. 飼料用大豆・高栄養TMR生産調製実証事業（継続）

飼料作物の収穫作業等を受託するコントラクターやTMRの調製・供給を行うTMRセンターは、良質な国産粗飼料の生産利用拡大に大きく貢献

TMRの調製に不可欠なタンパク質原料であるアルファルファ乾草や大豆粕等の多くが輸入されているが、近年、価格が高騰し将来的な供給が懸念。一方、国産の飼料用大豆は日本の気象環境に適しており、その活用が注目されるが、飼料用大豆栽培に使用できる登録農薬がほとんどなく、雑草の防除が栽培・利用上の大きな課題。

イネ科牧草をリビングマルチとして雑草を抑制する飼料用大豆の栽培・利用体系が、農研機構東北農業研究センターにより岩手県中部において開発。

飼料用大豆・高栄養TMR生産調製実証事業

1. 飼料用大豆・高栄養TMR生産調製実証推進委員会等開催事業

学識経験者等からなる飼料用大豆・高栄養TMR生産調製実証推進委員会を開催し、事業全体の円滑な実施方針の策定、事業推進に係る検討及び事業の達成目標等の自己評価結果に対する客観的な検証を行う。

2. 飼料用大豆・高栄養TMR生産調製技術実証事業

(1) リビングマルチを導入した飼料用大豆の栽培・利用体系の確立

飼料用大豆に適した品種等を選定するため、品種比較試験等を行い生育特性・収量等を調査するとともに、イネ科牧草を用いたリビングマルチを導入し、飼料用大豆の安定生産のための地域に合った栽培・利用体系を確立する。

(2) 飼料用大豆・高栄養TMR生産調製技術の実証・普及

(1)で確立した技術等を利用して、コントラクターによる実証規模の飼料用大豆の生産及びTMRセンターでのTMR調製の実証を行い、成果の普及を図るため現地検討会の開催、普及用資料の作成等を行う。

変動の激しい輸入飼料への過度の依存体質からの脱却による畜産経営の安定化を実現。

イネ科牧草をリビングマルチとして利用しSDGsの達成に資する無農薬・低コスト栽培の粗飼料生産の展開。

飼料用大豆・高栄養TMR生産調製技術の実証・普及事業

○事業内容

リビングマルチを活用した飼料用大豆の実証

○支援対象者

飼料作物の収穫作業等を受託するコントラクターやTMRの調製・供給を行うTMRセンター又はこれに準ずる者

○支援対象の費目

右表のとおり

○支援期間

播種準備から収穫調製、結果取りまとめまで

○手続き

下記までご連絡ください(担当：橋本)

TEL :03-3251-6501

MAIL:r-hashimoto131@souti-fsa.or.jp

○支援対象の費目

費目	概要
ほ場借上料	実証圃の借上げ料
消耗資材費	牧草・飼料用大豆種子、肥料、農薬等購入費
賃借料	大豆不耕起播種機、ディスクハロー等借料
実証調査ほ看板費	看板作成・設置費
作業費	コントラクター等による作業料、作業賃金
調製資材費	サイレージ調製用ラップ、発酵促進剤等
役務費	飼料一般成分分析費
旅費	研究機関等調査打合せ旅費
報告書作成	賃金、消耗品

○上限額

原則として50a、1箇所当たり150万円

11. 令和4年度事業主要成果品一覧

事業名	令和4年度に作成した成果品名	種類	入手方法
草地生産性向上対策 ①優良品種の迅速普及 ・飼料作物等高能力新品種の迅速な普及の促進 ・飼料作物生産技術向上推進 ・飼料生産拡大推進	飼料作物等高能力新品種選定調査成績概要集 令和4年度全国公共牧場運営改善研修会資料 技術情報 「特集:持続可能な畜産の展開のため自給飼料生産の定着を図るー飼料高騰の今こそ安定した国産飼料確保に取り組みをー」 飼料作物優良品種の紹介（北海道版、府県版秋播用、重点普及品種） 令和5年播種用飼料用イネの栽培と品種特性 新聞広告「ペレニアルライグラス品種 夏ごしペレ」 新聞広告「極短穂型WCS用稲新品種 つきはやか・つきあやか」 持続可能な畜産物生産に関する全国セミナー資料 自給飼料生産優良事例集 放牧乳製品購入意向者像の分析 令和4年度全国コントラクター等情報連絡会議資料	冊子 紙媒体 冊子 パンフレット パンフレット 記事 記事 紙媒体 電子媒体 パンフレット 紙媒体	協会へお問合せください 協会へお問合せください 協会HP:技術情報ー情報誌「グラス&シード」 協会HP:協会からのお知らせ 協会HP:飼料作物品種・種子情報ー飼料用稲パンフレット 令和4年9月14日 日本農業新聞 令和5年3月17日 日本農業新聞 協会へお問合せください 協会HP:協会からのお知らせ 協会HP:技術情報ーマニュアル・パンフレット他 協会へお問合せください 協会HP:協会からのお知らせ
畜産廃プラスチック削減対策推進事業	事業普及用チラシ「畜産廃プラスチックの削減について」	電子媒体	協会HP:協会からのお知らせ
草地難防除雑草駆除技術等実証 ・草地難防除雑草駆除技術実証事業	草地難防除雑草駆除技術実証事業優良事例集	電子媒体	協会HP:協会からのお知らせ
ドローン活用飼料増産技術実証・普及事業 放牧畜産物生産普及推進事業	ドローン活用飼料増産技術実証・普及事業用普及・啓発DVD 放牧実践牧場PR動画 ① 春日牧場（北海道幕別町） ② 神津牧場（群馬県下仁田町） ③ 山本牧場（北海道中標津町）	ユーチューブ配信 動画媒体	下記QRコードよりアクセス  協会HP:放牧畜産って何？ー放牧の仲間たちー